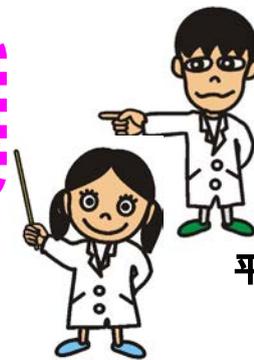


感染症に気をつけよう！



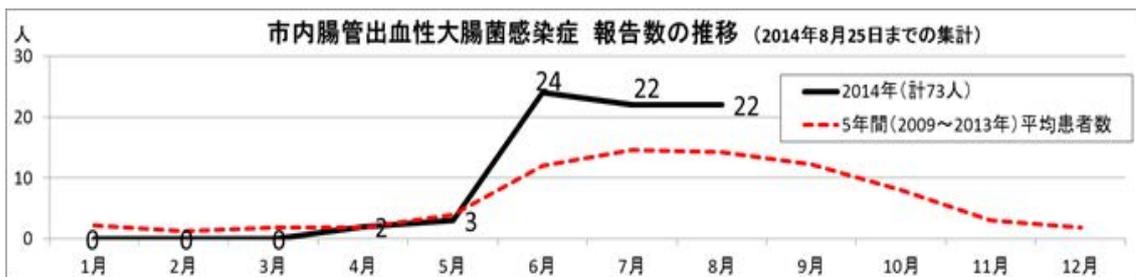
平成26年
【9月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明	【】は解説付き既刊号 ← クリック
腸管出血性大腸菌感染症	流行	横ばい	6月以降、例年を上回る報告が続いています。下の解説を参考にして、 <u>9月にかけても注意</u> しましょう。	【8月号】
伝染性紅斑 (こうはん)	やや流行	横ばい	リンゴ病とも呼ばれます。妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。 <u>予防には手洗い</u> が大切です。	【6月号】
ヘルパンギーナ	やや流行	やや減少	主に乳幼児がかかる <u>夏かぜ</u> で、突然発熱し口の中に水ぶくれができます。患者のオムツを替えたら、 <u>よく手を洗い</u> ましょう。	

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

■ O157(オーイコナナ)など病原性大腸菌に汚染された物を口にするのが原因です。食物から以外に、感染した人から他の人にもうつります。腹痛と下痢が何回も起き、血便が出ます。抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では重症になりやすいです。



■ 市内の報告で、焼肉店での食事が原因の例や家族内での感染がみられました。他県では、キュウリを原因とした集団食中毒も発生しています。

■ 肉は十分に加熱(75℃ 1分以上)し、野菜等もよく洗いましょう。

■ 家庭での感染防止には、手洗いが重要です。トイレは清潔に掃除し、ドアノブ等さわる所は、特にきれいにしましょう。

■ 全国的には保育施設での集団発生が多いです。

■ オムツ交換時の手洗いを徹底しましょう。園児への排便後・食事前の手洗い指導も大切です。

